

あなたのそばで
夢みる数字新聞

特集 「宇宙」

横浜開港一五〇周年を迎える今年、横浜銀行もお客さまとのあたらしいコミュニケーションに取り組みます。「あなたのそばで、夢みる数字」という言葉に込められているのは、お客さまが夢や目標について考えたり、ご家族やご友人と話し合うきっかけを作れば、という思い。この新聞には楽しい情報を、また、店頭のポスターにも工夫をこらし、街を明るく盛り上げていきます。季節ごとに発行する「夢みる」新聞とポスターに、みなさま、どうぞご期待ください。さあ、第一回目となる今回の特集は、『宇宙』！

インタビュー

写真家

本城直季 さん

ポスターの写真を手がけるのは、人や建物をミニチュアのように撮影する独特の表現スタイルで知られる、本城直季さん。宇宙や夢のこと、うかがいました！

横浜の赤レンガ倉庫を上空から撮影した写真、まるでおもちゃのようですね。空から見た神奈川は、いかがでしたか？

「これまで何度か撮影していますが、住宅街が広がっていて、たくさんの方が生活しているんだなと感じられるのがいいですね。湾岸のほうに行くと、また違う表情が見られるのも魅力です。ヘリコプターからは、地上では気づかなかった風景が見えて、面白いですよ」

今回のポスターは、「宇宙」がテーマです。本城さんは学生のとき、天文部だったそうですね。

「もともと星が好きで、自分の部屋の壁を布で覆って、暗闇で光る星のシールを貼りつけて、その中で寝たりしました。大学で天文部に入ったのは、先に友人が入部していたから。思えば、昔は、父がく

れた天体望遠鏡をよく覗いていましたし、望遠鏡とかカメラとか、僕は『見る』ということが好きなのかもしれません」

好きな写真を仕事にして活躍されている本城さん。夢を掴むために、何かアドバイスはありますか？

「僕はたくさん挫折をしてきました。勉強にも散々、やられっぱなしでした(笑)。そうやって、色々なことが

かなわないと、悶々とするんです。社会に対しても、自分に対しても。そんな気分をどうにかしようと、カメラを持って、なんとなく街に出るようになりまし。それがきっかけで、写真の面白さに気づいたんです。だから、ただガムシヤラに頑張る、というだけでなく、寄り道をするこ

とも大切だな、と思います。もし、うまくいったら、ぼーっとカメラ

ラを持って街に出ようなんて、思わなかったはずですから」

今後、本城さんが撮影した神奈川の街や子どもの写真が、横浜銀行のポスターになりました。お客さまには、どのように見てもらいたいですか？

「通りすぎず、ちょっとだけ足をとめて眺めてもらえたら嬉しいですね。僕の写真はミニチュアみたいだ、とよく言われます。だから、見た人たちの間で『ホンモノ？』『セモノ？』みたいな会話が生まれるといい。お客さんと横浜銀行との、コミュニケーションのきっかけになれるといいなと思います」



今回の空撮の様子

ほんじょう・なおき 1978年東京生まれ。作品集『small planet』(リトルモア刊)で第32回「木村伊兵衛写真賞」を受賞。作品はニューヨークのメトロポリタン美術館にパーマネントコレクションとして収蔵されている。近年は世界諸都市で空撮を続けるほか、広告・雑誌にも活躍の場を広げている。

さらに、たとえばこんな値段 [1,580円]

今回のポスターにも登場している組立式の「君もガリレオ」望遠鏡(世界天文年2009日本委員会認定)。倍率15倍で、月のクレーターもくっきり！

[2,100円]

JAXAの筑波宇宙センターで、実際の宇宙飛行士訓練設備での訓練体験！若田光一さんも使っていたそう。

生きるため、何かをするために、必ず関わってくるのが「おかね」です。そのために、働いて収入を得たり、貯めたり、使ったり。おかねのことも一緒に考えていけば、夢や目標にきっと近づいていけるはず！

二〇〇九年は、世界天文年

日

本人宇宙飛行士・若田光一さんの宇宙滞在など、最近ではTVのニュースでも、宇宙について耳にすることが多くなりました。ところで、ガリレオ・ガリレイという名前、聞いたことありませんか？ 彼こそが、宇宙への扉を開いた人。一六〇九年にはじめて望遠鏡を夜空に向けたといわれています。それからちょうど四〇〇年となる今年、「世界天文年」に指定され、世界各地でさまざまなイベントがおこなわれています。公式ホームページには国内のイベント情報も満載。興味ひかれるものを探せば、宇宙への好奇心の扉をひらく、すばらしい出会いがあるかもしれません。
www.astronomy2009.jp/index.html



はまぎん こども宇宙科学館に行ってみよう！

J

R 洋光台駅から、すこし歩いていくと、「はまぎんこども宇宙科学館」のまあるい屋根が見えてきます。ここにはドーム型の宇宙劇場、宇宙のふしぎを体験できる展示やアトラクション、スタッフによるミニ実験など、一日中いても飽きないようなコーナーがたくさん！取材におじゃました日も、小学生から大人までたくさんの人たちでにぎわっていました。宇宙劇場では、プラネタリウム新番組『横浜から宇宙へ』がはじまるそうですよ。身近にある「宇宙」で、みなさんも遊んでみませんか？



はまぎん こども宇宙科学館
交通→JR京浜東北線・根岸線「洋光台」駅から徒歩3分／開館時間→午前9時30分～午後5時(夏休みは6時まで)／休館日→第3月曜日、年末年始など(詳しくはホームページでご確認ください)／入館料→大人400円・小・中学生200円
www.ysc.go.jp/ysc/ysc.html

それゆけ！撮影隊

今回、上空から撮影したのは、横浜の赤レンガ倉庫。そして、モデルをつとめてくれたのは茅ヶ崎に住む篤史君。星を見ること、バスケットをすることが大好きな小学生です。カメラの前で、元気よくポーズを決めてくれました。

